



賛助会員・機関誌購読者のみなさま、および
「3.11 からの出発」活動基金にご寄付くださったみなさまへ

2014.1.20

「3.11 からの出発」活動のご報告 No.12

本岡 享子

——8 回めの陸前高田訪問

2013 年 11 月 7 日から 8 日にかけて、陸前高田に行ってきました。今回は、元研修生の小野寺愛美さんと、記録映像撮影のため森英男さんが同行してくれました。小友小学校へは、「ちいさいうち」の吉田佳織さんも加わり、4 人での訪問となりました。校長先生と今後の活動について少しご相談をし、そのあと 3 校時に 1・2・3 年生、4 校時に 4・5・6 年生にお話をしました。吉田さんと小野寺さんにもお話を語ってもらいました。吉田さんのことを『「ちいさいうち」のひとだよ』と、紹介すると、何人かの子どもたちから「知ってる！」と、元気のいい声があがりました。ご常連になった子どもたちだということでした。

お話は、低学年には「かにかに、こそこそ」「おばあさんとブタ」「金いろとさかのおんどり」。それに、おまけとして「ギイギイドア」。これは前回リクエストが出たのに応えてあげられなかったからです。題をいうと、「ああ、ブタなんかが出てきてさわぐんだ」と、思い出した子もいましたが、それでもみんな、「パチンと電気を消して、ドアを閉めました」というたびに息をのんで「ギイ〜」を待ちました！

高学年は「花仙人」でした。4 年生には少し長すぎるかな、と心配しましたが、まったくその必要はありませんでした。ほんとうに緊張感をもって、しまいまでよく聞いてくれました。終わってから、先生が「だれか感想をいいたい人？」と、たずねたら、ほとんど全員の手があがりました。4 年生の子の感想は「世の中には、いい人とわるい人がいるのだとわかりました」というものでした！

今回うれしかったことは、図書室がとてもきれいに整備されていたことです。4 月から図書担当になった村上先生が一所懸命やってくださったのでしょう。学年別に分けられた生徒ひとりひとりの貸出の記録なども、すぐ見られるようになっていて、それを見ると、子どもたちがよく本を読んでいることがわかります。低い書架の上には、3 年生による「お友だちに本を紹介する作文」も並べられていましたが、どれもていねいによく書いていて感心しました。学校をあげて読書に力をいれていることが感じられました。

12 月にはいつて、小友小学校の子どもたちからは、冬休みに贈る本の希望が寄せられ、終業式の日間に間に合うように、本が届けられました。それぞれの子がその本を希望した理由を想像しながら、本に貼りこむカードにお名前を書きました。たのしんで読んでいてくれるといいなと願っています。

「ちいさいうち」は、室内のディスプレイが、いつも見事です。アイデアのよさと、ていねいな手仕事。心も時間も使ったすばらしい作品です。職員だけでなく、外部からも、折り紙作品や、端切れを使った小物などを届けてくださる方があるとのことでした。

「ちいさいうち」のお隣の市立図書館の前庭では、20 人ほどの人が集まって、花の寄せ植えの講習会が開かれていました。「図書館に足を運んでもらうきっかけをつくりたいと思って」と、この催しを企画した市職員の長谷川敬子さんが話してくれました。よいお天気だったので、みなさん生き生きと、とてもたのしそうに寄せ植えに取り組んでいらっしゃいました。仮設を出て自分の家に移る人がぼつぼつ出ていると聞いていたので、新しいうちに飾るのかしらと、葉ボタンやヴィオラで思い思いにアクセントをつけた、たくさんのみどりのバスケットを眺めたことでした。



こんどの訪問では、森さんが撮影したいということで、初めて「奇跡の一本松」を見に行きました。下から見上げると、木の向こうに青空が広がり、白い雲がゆっくり枝をかすめて動いていきます。ここに7万本の松原があったとは、その場に立っても想像することができません。今は、下水処理場の建設工事とかで、まわりには超大型のクレーンが林立していました。

2013年の暮れにも、「3.11からの出発」基金にいくつかの団体や個人から、まとまったご寄付をいただきました。震災から2年9ヵ月をすぎ、あわただしくすごして、なにごとにもすぐに忘れる暮らしのなかで、震災と被害者のことを記憶にとどめ、継続してご支援くださる方々がいらっしゃることに、大きな励ましを受けています。心よりお礼申し上げます。みなさまのおかげで、来年度も活動がつづけられそうです。ありがとうございます。これからも、被災地の子どもたちのことを心に憶えてくださいますように。



いつか足を運びたいと希望していた小友小学校と「ちいさいおうち」に、ようやく行くことができました。移動の車中から見える景色、校舎が建つ高台から見渡せる景色、どちらも目の前にはさら地や整備のための盛り土が広がり、ダンプカーの往来が目立ちます。復興に向けて前へ進んでいる。でも2年半が経っても、まだここまでしかたどりついていない。そのどちらとも取れる光景を目の当たりにした私には、この街で暮らす子どもたちがいったいどんな思いで、毎日を過ごしているのか、その思いをよく想像することができませんでした。小友小の子どもたちに会うことはとても楽しみなのに、困惑した思いのまま、会場の図書室で子どもたちを待っていると、子どもたちはごく自然体で入ってきました。その姿を見たときに、変に構えることなくいつも子どもたちにお話を語っているように、この時間を過ごそうという気持ちにふっとさせられました。

次に訪れた「ちいさいおうち」は、思いのほか、ゆったりとしたスペースがあり、ぬくもりのある空間が広がっていました。ちょうど、乗り物をテーマにした読書キャンペーンが行われていて、大勢が参加して楽しんでいる様子は、スタッフの方が手づくりしたポスターからよく伝わってきました。とくに目を引かれたのは、工事現場見学ツアーなる催しのポスターです。今まさに子どもたちの生活に密着しているダンプカーやショベルカー、そのほか普段ならめったにお目にかかれない工事用の特殊車両を、間近で見学しようという企画で、市役所の協力も得て実現したそうです。地元で生活をし、その街の暮らしをよく知った、ちいさいおうちのスタッフだからこそ思いつくアイデアだと思いました。

昨年夏休み、宮城県東松島で小中学校の図書室整備のボランティアに参加したとき、地元の方が私たちボランティアメンバーに向けておっしゃったのは、「これまでに受けた全国の皆さんからのさまざまなご支援には、とても感謝しています。でもこれからは、被災地に暮らす私たちが自立した生活を送れるような支えがありがたいです」ということでした。子どもたちにお話を届けたり、いつでも豊かな読書生活を送れるように環境を整えたりしていくことは、子どもたちがこれからの未来を自分の足で歩いていくために必要なことで、私も長く関わっていきたいという思いを強くする旅となりました。

(小野寺愛美)

公益財団法人 東京子ども図書館

〒165-0023 東京都中野区江原町1-19-10 Tel.03-3565-7711 Fax.03-3565-7712 URL <http://www.tcl.or.jp>

振込先 ゆうちょ銀行/郵便局 口座記号番号 00130-9-115393 加入者名 公益財団法人 東京子ども図書館

*報告のバックナンバーは、ホームページでもお読みいただけます。